

「主体的で深い学び」を問う

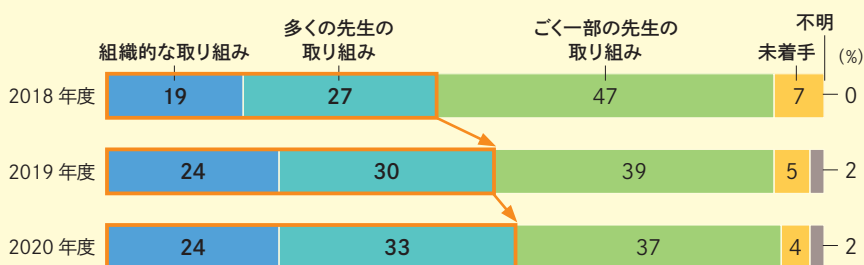
前号（8月号）の特集を受けて、教育の「これから」を考えるシリーズ特集をスタートする。第1回のテーマは、新学習指導要領において、資質・能力を育成するための学びとして求められている「主体的・対話的で深い学び」だ。

「アクティブ・ラーニング」の言葉で注目されて以来、新学習指導要領の実施が近づくに連れて、その学びの実現に向けた授業改善の取り組みは全国に広がっている。ただ、それは特定の指導方法のことではない半面、教師間の理解や認識が合わせづらいのも実情のようだ。そして、コロナ禍の中での授業実践を通じて、自身の授業のあり方を見つめ直している教師も少なくない。「主体的・対話的で深い学び」とは、どのような学びなのか——今号は、その問いに5人の教師とともに向き合ってみていただきたい。

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の取り組みは拡大傾向に

コロナ禍の中で、自身の授業のあり方を見つめ直す教師たち

◎「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の状況



*ベネッセコーポレーション教育情報センター「教育・入試改革対応に関する調査」（2020年9月）を基に編集部で作成。

「アクティブ・ラーニング」の重要性が広まっていった頃、「指導の特定の型や手法ではなく、考え方である」と繰り返し言われていた。しかし、改善を繰り返し、定着してきた授業形態を、コロナ禍において変えざるを得ないことに対して困惑している自分がある。「それまでやってきた型や手法」が使えずに困るというのは、「型や手法」にこだわっていた部分があったからだろう。「主体的・対話的で深い学び」の原点に立ち返り、授業のあり方を再考している。（山形県）

オンライン教材を作成し、テキストとしっかり向き合えば、対面でも生徒が自ら獲得できる力があることが分かった。今は、対面でしかできないことは何か、考えている。（北海道）

学びに向かう姿勢を育成すれば、自宅学習になったとしても、生徒は自身で学習内容を考え、有意義に過ごせたのではないかと考えると、教師の力不足を感じる。学校で作成した動画を活用して積極的に学ぶ生徒もいて、自分で学習を進められる生徒とそうでない生徒の差が大きく開いてしまった。「主体的な学び」とは何か、どうしたら生徒が「主体的に学べる」のだろうか。（茨城県）

出典／『VIEW21』高校版読者モニターへのアンケート結果（アンケートは、2020年6月、8月にウェブとファクスで実施）。

特集

シリーズ 教育の「これから」を考える ①

「主体的・対話」

5人の教師が考える

「主体的・対話的で深い学び」実践事例



国語

宮崎県立高鍋高校
三浦 亜子

P.9-11



地理歴史・公民
(世界史)

静岡県立御殿場高校
美那川 雄一

P.12-14



数学

大阪府・私立近畿大学
附属高校・中学校
芝池 宗克

P.15-17



理科(生物)

熊本県立熊本北高校
溝上 広樹

P.18-20



英語

大阪府立今宮高校
森 一真

P.21-23

解説 「主体的・対話的で深い学び」

5人の教師の実践を交えて

國學院大學 人間開発学部 初等教育学科 教授 田村 学

▶ P.24-27



オンライン・ワークショップ
第1回リポート

自校の教師同士の対話を通じて、
教育の「これから」を考える

▶ P.28-30

生徒の・教師の・自校の・社会の
NEXTを語り合うワークシート

今号の特集のテーマを
自校の教師同士で深める
ツールとして、ご活用ください

▶ P.32-33



このマークのある図版は、ベネッセ教育総合研究所のウェブサイト (<https://berd.benesse.jp>) からダウンロードできます。
「HOME → 教育情報 → 高校向け」をご覧ください。